

ディスプレイのデザインを革新するFFDが進化 「曲面型FFD(フリーフォームディスプレイ)」など4種類を初公開

シャープは、ディスプレイのデザイン性を革新するFFD(フリーフォームディスプレイ)をさらに進化させ、「曲面型FFD」など、4種類を新たに開発しました。幕張メッセで開催されるCEATEC JAPAN2015<開催期間：10月7日(水)～10日(土)>にて、初めて公開いたします。

「曲面型FFD」は、12.3型FFDの中央部が凸型に湾曲しており、曲面デザインが多い自動車のダッシュボードなどへの搭載を想定しています。また、円形型ディスプレイの周囲に操作ダイヤルを備えた「ダイヤルUI搭載円形型FFD」や車のバックミラーを想定しFFDの側面にタッチセンサーを備えた「エッジUI搭載ミラー型FFD」、「台形型FFD」の4種類のFFDを開発しました。

FFDは、当社のIGZO技術の応用と回路設計手法の確立により、ユーザーからの様々な形状ニーズに対応することが可能です。従来のディスプレイは、表示領域の外周部に、ゲートドライバと呼ばれる駆動回路を配置するために一定の額縁幅が必要でしたが、FFDではゲートドライバを表示領域内の画素内に分散して配置することで、額縁を極めて細くするとともに、表示領域にあわせた自由な形状に設計することを可能にしました。

当社は、2014年6月にFFDを開発。車載用をはじめ、ディスプレイ全面を表示領域とした「フレームレス型FFD」をPCやタブレット向けに提案しています。今後も、さまざまな用途に適したFFDを提案し、製品デザインの革新に貢献してまいります。



【曲面型FFD】(イメージ図)

【お問い合わせ先】

お客様：ディスプレイデバイスカンパニー 第一事業本部 第四事業部 (0598) 38-8270